

園長だより

本格的な梅雨に入りました。降る雨を眺めているのも風情があるものですが、子ども達のことを思うとほどほどに降り、お日様の陽ざしを期待したいものです。

各地の地震、加えて大雨、甚大な被害がでていることを我が身のことと感じて災害に備えていく必要を強く感じています。

悩み多い保育者

私がこの世界（保育者）に入り30年以上が経ちます。多くの保育者を見てきました。共に汗を流し子ども達の事を中心に据え、取り組んできました。多くの先輩、後輩、いわば同志の出会いも数えきれないほどありました。

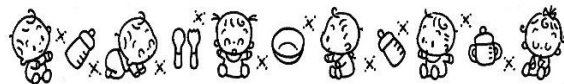
保育者（仮名Sさん）の話を綴りましょう。

Sさんは幼稚園の先生です。

多くの悩みを持ち、日々、悪戦苦闘しています。幼稚園にはそれぞれにおいて、特色豊かな保育、教育が展開されています。

教育と言われ思い浮かぶ内容を考えてみて下さい。

多くの方は文字を書いたり、合奏をしたり英語や作法の時間があったりするものと考えがちです。いわゆる小学校の教科をそのまま、年齢に合わせ実践に結び付けてしまうことでしょう。教育という文言から想像するのですから仕方ないことです。



Sさんの幼稚園も同じ類です。保育内容が園の特色として反映され、お稽古、お習い事の範ちゅうにあります。子ども主体の保育への転換をはかり自然体験、造形活動に力を入れるも、足し算式で活動量のキャパオーバー

行事の在り方も活動も右ならへ、活動も決められた手法で進められていく。これでは、子ども同士のコミュニティーの構築も十分にできる時間が捻出されるわけではありません。

「大人主導の保育に悲鳴を上げています。」
「行事や活動に追われているのが現状です。」
「子どもをしっかり見て保育する余裕がありません。」

「子ども達と向き合えていません。」

「行事や活動に追われる生活は、大人にも子どもにもよくない状態です。」

「現状は理解しているけど、どうすればいいのか」と多くの悩みをかかえています。

なんとか子どもに寄り添い、子ども主体の活動を展開したいと日々、取り組んでいるわけですが長い、長いトンネルは続きます。

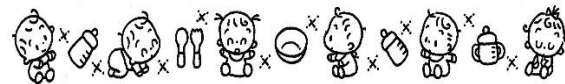
心の叫びが聞こえてきます。

国内にいる保育者の中には同じ類の悩みを抱えている方は多くいることでしょう。

以前の便りでも触れましたが早期教育や就学前の先取り教育を私は肯定していません。

幼児教育の中では、それぞれの園が考え、良かれと思う事を実践しています。

園が定める教育や保育内容を示した幼稚園



教育要領や保育所保育指針を遵守すれば、先取りや早期教育等なんでも取り入れてよいのでしょうか。

Sさんの悩みは幼稚園が長年築いてきた、教育文化が吟味されずにきた結果が招いているように思えます。今まで培ってきた保育内容だからすべてが正義と思うのはいかがなものか又新たに試みている活動も深層から検証していく必要もある。

自分たちの保育を振り返ること、子どものためにより良い生活を保証してあげようとするならば、もう一度、Sさんが声を上げ、地道に良い意味での同僚に揺さぶりをかけていくことが大切と感じています。

Sさんは悩みを他者に打ち明けられた、自分の不甲斐なさを露呈できた、一步前進できたと捉えることができます。

今後のSさんの変化に期待すると共に2歩、3歩の前進に力をかけてあげられるよう私も努めたいと思います。

保育を考える 機会をいただきました。

自園での取り組みを考えてみましょう。

Sさんと同じ悩みはあるだろう。

保育士それぞれが置かれた状況、保育内容、経験年数、園内での役割、共に従事する人間関係等、幾つもの事柄が織り交ざり、結果、保育にゆとりがない、活動に追われる等の不具合につながります。保育を営む以上はついてまわる問題ですがその要因を理解し改善して

いく必要があります。

便り18「良いチームをつくる」で述べましたが「子ども達の主体的な生活は主体性をもった保育士から生み出されるもの」保育は一人でするものではない、ひとり、ひとりが養い獲得してきた力が基本になりますが組織力がものをいう世界です。

すべては良好な人間関係から

互いの置かれている状況を知る、気に掛けてあげる、互いの感情を知り、共有する。

それぞれの足りないところはみんなで補う、

互いが認め合い、助け合い、支え合い、保育のあれこれを話し合えること等の意識向上が必要とされます。

※現在、↑課題に向かい合い進行形です

子ども達の育ちへの願い

幼いながらもそれぞれが主体性を持ち合わせて欲しいと願っています。自分で決めて、自分で選んで行動する。時には同じ志の仲間と協力して取り組む、できるだけ自分（自分達）で活動（生活）してほしいと願っています。

育ちにに応じて適切な支援（時には指導）をします。大人が導くこともあります。すべては目の前にいる子ども達の理解から、はじまります。子どもを知り、理解する、結果、おのずと適正な保育内容が生み出されると考えます。

まだまだ、子どもからの学びは続きます。

（園長 廣部 信隆 20）